

ほりえ 眞報44号

ほりえ眞報44号 2016年5月10日 堀江眞発行
雲南市吉田町上山 79-1 TEL0854-75-0236
e-メール horie.shin@gmail.com
ブログ <http://www.nanushi.com/blog/>
眞さんのつぶやきで検索。facebook もよろしく。

28年度 一般会計予算282億円余 約16億円減額
映画・たたら侍 オープンセット保存に3千万円

1号議案を否決

1号議案は「雲南市寄付によるふるさと政策選択条例の一部を改正する条例で、これまで寄付金は全額基金として積み立てられていました。今回、寄付金の返礼品をこれまでより豪華にするこやインターネットで寄付ができるシステムを構築することを経費が拡大するため経費を差し引いた「市長が定める額を基金として積む」とする条例とした。議員から寄付者の意思を尊重し、あくまで寄付金は全額基金として積み立てるべき。返礼品、事務経費は別途予算を組んで支出すべきというものでした。採決の結果委員会、本会議も全会一致で上程案を否決。

▼その後4月19日総務委員会を開催。条例は変えず、規則で寄付金の中から経費・返礼品を支払うことができる。ことに改正されました。

この他、市長・市議会議員選挙の選挙運動用自動車が公費負担されることになりました。(一日当り6万4千5百円)。
また市長選には選挙運動用ピラも公費が認められます。県内各市と同条件になりました。
このほか各地域の「公の施設」の指定管理について関係の団体が指定され承認されました。

出雲國たたら風土記物語 日本遺産に認定



日本遺産の重要拠点です。JR瑞風もやってきます。映画「たたら侍」も完成です。菅谷高殿

4月25日 午後5時、菅谷高殿で関係者多数が集い、祝賀セレモニーが開催されました。日本遺産は世界遺産や指定文化財のように価値づけや保全のために規制を図るものと異なり、地域に点在する遺産を「面」として活用、発信することとで地域活性化を図ることを目的とする。となっています。この度、雲南市・安来市・奥出雲町が「鉄づくり千年が生んだ物語」として申請し文化庁に認められたものです。

清嵐荘事業費 大幅増か

田井出張所の歴史に幕



桜満開の清嵐荘。長い歴史に一旦幕。大改修後31年度に再開予定

28年度限りで一旦休業して大改修に入る予定の国民宿舎清嵐荘の総事業費が当初見込み10億円から15億円超になると3月14日の産業・建設常任委員会にて報告されました。これを受けて4月25日同委員会を開催。改めて増額経緯や今後さらに増額されることはいないのか等質疑されました。主な変更点は温泉施設を本館内に取り込む・現浴場もやがて改修が必要なることを考慮。パイオマスを導入する・建設単価の高騰などが主な要因と説明。5月の委員会、全員協議会などで改めて説明する旨の答弁。再オープン予定は31年の秋口となっています。たたらストーリーの日本遺産認定など良い風が吹いています。早期の着手・完成に向け一層の努力を願いたいと思います。

昭和29年吉田村・田井村の合併で吉田村田井出張所としてスタートして六十年余、長い歴史に幕を下ろすことになりました。昭和48年には田井コミュニティセンターの中に出張所・診療所も併設移転、平成10年、吉田村ふるさとセンター新築で移転。平成16年雲南市合併でも吉田総合センター田井出張所として存続してきました。平成28年3月ついに閉所。今後、開設日を縮小するも雲南市民サービスコーナーとして機能が継続されます。地区の拠り所として大きな役割を果たしてきた田井出張所。公的機関の縮小撤廃は人口減少・高齢化が急激に進む中、地域の衰退に拍車をかけ、地域再生に逆行すると反対の声があります。3年後、再見直しが行われます。交流センターと同居する新しいサービスセンターを十二分に活用してほしいと思います。

編集後記 熊本・大分で大地震。これまで例にないほど長期で頻発しています。関係の皆様は心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。早期の終息・復興を祈ります。●長い間失礼をいたしました。雲南市も合併して12年が経過します。若いつもりも老人クラブから声がかかる年齢になりました。若い力の台頭を期待。眞